

2 おうちで暮らし続けられるように ～定期巡回・随時対応型訪問介護看護という選択～

春園苑24時間ヘルパーステーション 課長 大内 恵子 氏



平成27年3月に事業を開始した春園苑24時間ヘルパーステーションは、地域密着型サービスの定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業となります。

従来の訪問介護と違い、定期での利用者様宅への訪問に加え、24時間いつでも連絡、相談が出来る機器を設置し、必要と判断される場合に随時訪問を行い、訪問看護が必要な場合には、連携先の「訪問看護ステーション春園」からの訪問看護も受けられます。

しかも、料金については1か月の定額制となり、訪問回数による変動はありません。

発表させていただいた頃は、若干のご利用がありました。他の介護サービスとの併用に支障をきたさず制度となっており、その後も利用者様の増加は進まず、制度改革が望まれると同時に、当該サービスの周知が課題となっておりました。

昨年度末から新たな利用が開始され、若干ですが増加傾向にあり、これまでの点在する訪問から、線でつながった巡回訪問が行えるようになってきております。



第2部 おうちで在宅介護を体験して



船 迫 潤 氏

医療・介護サービスを利用し、スタッフの皆さんに支えていただきながら、自宅で父を介護した経験をご紹介します。

この経験を通じて、保健・介護のお仕事をされている皆さんは、患者や利用者のケアだけでなく、家族の命や生活、仕事を助け、生かす仕事をされているんだなあと実感し、感謝の気持ちで一杯であることをお伝えいたしました。



高 橋 紀代子 氏

主人の病名は胸部食道癌でした。本人の希望は痛みがなければ予後は自宅で過ごしたい、急変時は延命治療はしないと話していたので迷わず在宅介護に決めることができました。当時私は74歳膝が痛く来客の対応、夜間は主人が傍にいれば気が休まる暇がありませんでした。不安はありましたが、定期的に村岡先生が来てくれ、訪看さんには点滴の管理や様々な指導を頂き、本人が一番希望した入浴も出来、最後まで自分で尿器を工夫しオムツは使いませんでした。介護は、よく本人の話を聞き面倒がらずに答えること、一人で抱え込まないことです。闘病中の日記に「俺の終焉はどうなることか」と書いてありました。人生の終末を迎えることは本当に残念だったと思います。これまで生きてきたことを振り返る時、多趣味で多くの人に支えられ長く短い人生だったと思いはせたとします。苦しかったと思いますが「生」を終える姿を子・孫たちに人の「逝き方」を身をもって教えてくれたことは、素晴らしい「教育」になったと思います。

福祉用具(介護用品)の展示 栄養補助食品の試食 (平成26年～平成30年開催)

御協力いただいた皆様 (敬称略)

- 株式会社コンホートケア
- 株式会社クリニコ
- 福祉用具のえにし
- 株式会社大塚製薬
- ライフサポート村伝
- 株式会社明治
- 有限会社ホロス
- 株式会社バイタルネット

